

令和6年度授業改善推進プラン

学校名 西東京市立ひばりが丘中学校

校長名 井上 雅子

1 調査結果を踏まえた本校の状況

現在、本校の生徒は、質問紙からもわかるが、朝食、起床就寝時間の定着など、おおむね基本的な生活習慣がついている生徒が多い。そのため生徒は落ち着いた学校生活の中で学習にもまじめに取り組んでいる。上級生を中心に、学校行事にも積極的な姿が見られる。令和5年度「全国学力・学習状況調査」でも、これまでの調査結果と同様にほぼ全ての項目で、国および東京都の平均値を上回る結果を得ている。国語、数学ともに3つの分類「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」において全国の平均正答率を4～12ポイント上回る正答率である。

2 教員組織等の状況

20代、30代の教員が32人中17人と比較的若い年齢構成である。そのため積極的に研修、研究を行う意欲をもつ教員集団である。校内研修では、学年ごとに指導案検討を進め、全員が研究授業を行い、授業改善にチームで取り組み、高め合う教員集団である。今年度の校内研修は、「令和6、7年度東京都人権教育推進校」の指定を受けたことから、「人権教育の推進と各授業での人権感覚の育成」をテーマに、人権教育の視点を入れた授業改善に取り組んでいる。

また毎年、都の教師道場や教育研究員に教員を参加させている。今年は東京都教師道場に1名が参加しており、校内で行う研究授業に市内や都内から多くの教員が参観に来ることが、本校の他の教員に授業改善の刺激を与えている。次年度も道場、研究員に希望をもつ教員が出ている。

3 地域の状況

令和3年に開校60周年を迎え、その年の2学期から新校舎に移転し、新しい地域と連携し地域に愛される学校作りを行うことに努めている。移転したひばりが丘の校区は、新しいマンションや住宅地が立ち並ぶ新しく整備された地域と、ひばりが丘駅までの古くからある商店街や住宅地とが混在している。

保護者や住民は教育に大変関心が高く、PTA活動、小中のおやじの会、地域育成会など、子どものために積極的に活動する意欲と活力をもつ。今後も学校運営協議会を中心に、小学校の学校運営協議会とも連携しながら、学校・保護者・地域が一体となった「行動連携」「相互互恵」関係を構築し、信頼されるコミュニティスクールを推進する。

4 前年度までに行った学力向上に係る取組を踏まえた本校の状況

平成30～令和元年度「西東京市立学校研究奨励事業研究指定校『小中一貫』」を行い、生徒が主体的に学ぶ学習の確立と確かな学力の育成を目指した。令和2年度からこれまで研究の成果である「授業スタンダード」（めあてをつかむ→主体的に取り組む→高め合う→振り返る）を基本的な学習過程とし、授業改善に取り組んできた。令和2年度からは、校内研修委員会を中心に、全教科において、授業スタンダードを基本に、生徒の「主体的・対話的で深い学び」に繋がるための授業改善に取り組んでいる。また令和3年度からは、タブレット等のICT機器を効果的に活用する授業改善を加えた。令和4・5年度には、本校の話し合い活動「ひばりスタンダード」を国語科以外の全ての授業でも実施し、自分の意見を伝え、他の意見を聞いて考えを深めることで、言語活動の充実につなげている。

【国語】1年生のときから、単元の始まりは「学習計画づくり」を実施している。説明文や物語文を読んだ際の初発の感想から、一時間ごとのめあてを設定し、そこを中心に読み深めていく活動をしている。その結果、「国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめて

いますか」という質問において、当てはまる・どちらかといえば当てはまるを選択した生徒が 86.9%であった。これは、都・全国の結果と比較すると約 7%高く、自分たちで設定しためあてを読み深める活動が活きていることが分かる。また、2年生のときには書写の学習を毎月 1～2 時間実施したり、百人一首を覚える活動の中で歴史的仮名遣いを理解したり和歌に描かれている背景を主体的に調べたりした。それらの活動が充実しているため、「言葉の特徴や使い方に関する事項 (69.6%)」と「我が国の言語文化に関する事項 (86.5%)」に関する問題の正答率につながったと考えられる。

【数学】どの学年でもひばりルームを活用し、数学科教員が巡回し質問を受け付けている。また昨年度は図形の証明問題の無回答率が高かったため、論理的に考えて証明問題を最後まで記述できるように補習教室を実施した。(昨年度)

5 本校で取り組む学力向上策

(1) 西東京市教育計画に基づいた。教育の質の向上と活性化を推進する。

- ・「授業改善推進プラン」を基に、全教科・領域で「課題の明確化と改善」を図る。1 単位時間の学習過程で、「小中一貫」の研究の成果、「授業スタンダード」を実践する。
- ・全教科、領域を通じて、「ひばりスタンダード」の話し合い活動を行い、自身の意見を広めたり深めたりして発表し合う学習を推進する。
- ・数学科の習熟度別少人数指導を中心に個々の生徒へ、丁寧で質の高い適切な教育を推進する。
- ・学習遅延が心配される生徒等へのひばりルーム（長期休業中および試験前の補習教室）を実施し、基本的学習スキルの定着を図る。
- ・通年での朝読書の推進による言語能力向上を図る。
- ・一人一台のタブレット端末を効果的に活用し、プレゼン資料を作成し、自分の意見を発表し他と交流したりすることで思考・判断・表現の育成を図る。
- ・タブレット端末を活用した家庭学習の充実により、主体的に学習する態度を育成する。

(2) すべての校務について「チームひばり」の意識をもつ

- ・学習指導要領に基づき、自ら授業改善に努める教師集団を目指し、協働して互いに高め合う組織をつくる。2 学期に、一人一回以上の研究授業を実施し、人権教育の視点を入れた主体的、対話的で深い学びを実現する授業改善を全員で行う。その際、年 2 回の生徒による授業評価を教員一人一人の授業改善のための指導案作成に生かす。そのために夏休み前に、教科ごとに指導案検討を行い、夏季休業中に指導案の作成を行う。授業後には相互に評価し合い、教員一人一人が授業改善を実現させる。
- ・体罰その他の服務事故ゼロに全力で取り組むため、「西東京あったか先生」研修を基軸とした日常的な服務規律の徹底に取り組み、授業では一人一人の「わかる」を実現させる。
- ・組織運営上のリーダー層の確立と若手教諭の指導力向上 OJT 体制を充実させることで、学校組織としての教育活動の質の向上を図る。各分掌主任の統括の下、校内分掌の役割分担の整理、スリム化を図るとともに、進行確認・連携・調整を徹底し、適切な教育進行を行うとともに、主幹・主任教諭を中心に中長期的な課題を整理・調整を行う。
- ・GIGA スクール教育推進教師を中心に、ICT を活用した授業の提案や研修、研究授業の実施等を行い、GIGA スクール構想を推進し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する。特に主体的に学習し、思考力・判断力・表現力を高める効果的な活用の指導方法を協議し各教科の授業改善につなげる。また不登校生徒にはタブレットを活用したオンライン授業を実施する。

(3) 調査を実施した教科の学力向上策（昨年度）

【国語】自分の考えを様々な語彙を用いて的確に表現したり、文章中の内容を正確に捉えてまとめたり

することに課題がみられる。そのため授業内では、

①自分の考えを短時間（15～20分程度）で、主張・根拠を整理して200字以内で表す。

②話し合い活動から得られた様々な見方・考え・表現（語彙）を、自分の考えに活かす。

活動を取り入れていく。また、登場人物を読み取る活動時には「〇〇な人」と端的に表現するのではなく、「〇〇である□□な人」と言葉数を増やしていく活動を取り入れていく。

【数学】

- ・定期考査、単元別テストの結果と生徒アンケートを踏まえた上での習熟度別少人数授業の実施。
- ・定期的な放課後のひばりルームでの質問教室の実施。
- ・各コースの進度や生徒の理解度や到達度を確認するために数学科の教員が集まって会議を行う数学部会の実施。